

事業名 おおつ おおぎ レークピア大津・仰木の里  
「ゆめこうえん」整備事業

〔小学生とともに創った新しいまちの21世紀ふるさと公園づくり〕

受賞機関 都市基盤整備公団関西支社  
滋賀開発事務所仰木開発課

事業実施期間 平成6年10月～平成11年4月

事業費 130百万円



全景

### 技術等の特徴と評価

近接する小学校の生徒が課外授業の一環として、5年にわたり計画及び整備に参加し、子ども達の自由な発想を造園デザイナー、遊具メーカー等のプロが具現化したという新しい住民参加型公園整備の例として、先導的、画期的な事業であることが評価される。

### 事業の概要と効果

レークピア大津・仰木の里は、滋賀県大津市北部、堅田丘陵地に、都市基盤整備公団が土地区画整理事業により開発した新しい街(面積189ha、計画人口16,000人、現在、約2,400戸、約8,000人)である。

「ゆめこうえん」は全人街道(コミュニティ道路)沿の街区公園であるが、仰木の里をふるさととして愛着を持って暮らしてもらえるため、公園づくりを、未来のま



公園入口

ちの担い手である小学生達と一緒に5年をかけて完成させた公園である。

平成6年の夏、仰木地区8号街区公園(面積2,600㎡)の整備に先立ち、「仰木の里のまちづくりに記念となる公園を残したい」、「そのためには、子供達と一緒に住民参加型の公園づくりはどうか。」との動機からワークショップによる「夢の公園づくり」が始まった。

公園を計画、整備する時期には、まだ誰も住んでいないこのニュータウンならではのハンディと“まちに対する愛着を育てたい”“新しいふるさとづくりをしたい”“戸外遊びが復権する子供たちの望む公園をつくりたい”などの想いを込めて、ニュータウン内で既に開校している小学校の児童を対象に参加型の公園づくりを企画した。

この遊びの主役たちと、ワークショップという参加型で進めた公園づくりは、現在まで数多く取り組まれた参加型の公園づくりとは、参加規模、期間等において特出する内容である。

この取り組みは、参加型まちづくり・公園づくりの技術の一つとして受け継がれるものである。



ゆめこうえん